

## 「宮城県藻場ビジョン」について

### 1 藻場ビジョン策定の趣旨

衰退が見られる藻場の保全・創造対策を積極的に講じていくため、国が平成28年1月に実効性のある行動計画となる「藻場ビジョン」を策定。

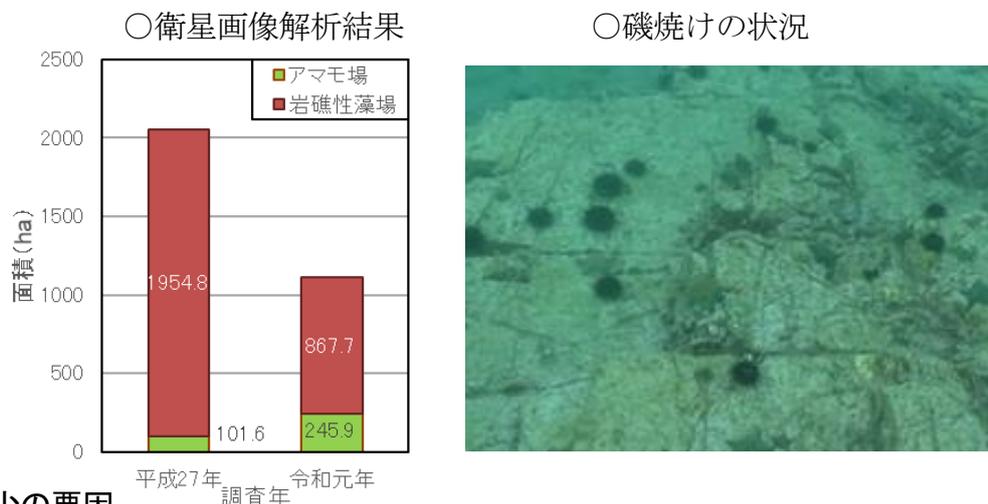
国は、指針に基づいた「各海域の藻場ビジョン」の策定を促進しており、今回、県でも積極的な藻場回復を図るため、県海域の「藻場ビジョン」を策定したもの。

### 2 概要

「藻場ビジョン」は、我が県の藻場の再生・保全を図るため、ブロック等のハード整備やウニ除去等のソフト対策が一体となった実効性のある今後10年間の行動計画となる。策定に当たり、大学教授等の有識者を交えた「磯焼け対策会議」の開催、漁業関係者からのヒアリング、潜水による現地調査や衛星画像解析を行い、藻場の状況等を把握した。

#### 1) 藻場の衰退状況の把握

衛星画像解析の結果、平成27年度時点の本県沿岸海域の岩礁性藻場面積は約2千ヘクタールであったが、令和元年度には約9百ヘクタールまで減少していることが確認された。

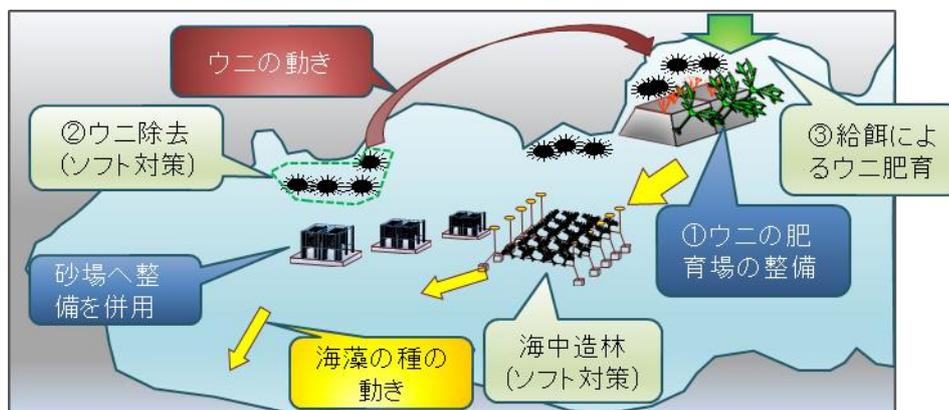


#### 2) 藻場減少の要因

親潮の勢力が弱い年の頻度が増加し、海水温の上昇や低栄養塩が見られたため、栄養不足により海藻類の成長スピードが低下したことと、海水温の上昇によりウニ類が活性化し、海藻等の摂餌量が増加したことによるものが考えられた。

### 3) 藻場回復の長期目標

藻場ビジョンの目標は、ブロック等藻類着定基質の投入や磯焼けの原因であるウニ類の除去などにより、高水温化にも消失しない核となる藻場を約21ヘクタール造成し、種の流出による藻場の拡大を図ることで、令和11年度に藻場面積を約1千8百ヘクタールまで回復させることとしている



### 4 ブロック等ハード整備の計画

漁業者からの要望等より整備候補地を選定した上で、海藻の栄養吸収量の増加やウニ類の摂餌量を低減するなど、海域に応じた対策工を策定した。

海域	支所からの要望 (R2.6現在)			R2年 予定	R3年 予定	R4年 予定	R5年 予定	R6年 予定	R7年 予定	R8年 予定	R9年 予定	備考
	場所	事業内容(主な対象)	ヶ所									
北部	大島	流れ抑制工(アラメ・ウニ・アワビ)	1			測量 試験	◎					流れシミュ レーション
	志津川	流れ抑制工(アラメ・ウニ・アワビ)	1							測量 試験	◎	流れシミュ レーション
中部	雄勝東部	既設ブロックの再利用による付着 基盤整備(アカモク)	1			測量 試験	◎					
	女川	着生基質整備(アラメ・ウニ・アワ ビ)	1					測量 試験	◎			
	谷川	着生基質整備(アラメ・ウニ・アワ ビ)	1							測量 試験	◎	
	表浜	流れ抑制工(アラメ・ウニ・アワビ)	1	測量 試験	◎							流れシミュ レーション
	七ヶ浜	着生基質整備(アラメ・ウニ・アワ ビ)	1					測量 試験	◎			

### 5 今後の藻場ビジョンの展開

今後10年間で、ソフト対策を重点に水産多面的機能発揮対策事業による取組みを拡大するとともに、ハード整備は地元調整を進めながら計画的に施工することで、効果的な対策を進めることとする。

また、藻場の回復状況を定期的に把握しながら、「宮城県磯焼け対策会議」を継続し、有識者からのアドバイスや漁業者間の情報交換を行い、結果を検証するなど、確実な藻場回復を図ることとしている。